

【ATC フィロソフィ[®]】

こんにちは、アークテックコム株式会社で、技術書類の作成と翻訳を行っています豊原 信です。

Tel : 050-6864-6201

Fax : 050-6864-6202

E-mail :

m.toyohara@arcteccom.jp

心身の積極的バランス

今月は弊社のフィロソフィー（考え方）と、応援メッセージについてお話します。

弊社のフィロソフィー（考え方）の続きです。

バランスのとれた人間性を備える

バランスのとれた人間とは、何事に対しても「なぜ」という疑問を持ち、これを論理的に徹底して追求し、解明していく合理的な姿勢と、誰からも親しまれる円満な人間性とをあわせもった人のことをいいます。

いくら分析力に優れ合理的な行動を貫くスマートさを備えていても、それだけでは、まわりの人々の協力を得ることはできないでしょうし、逆にみんなからいい人だといわれるだけでは、仕事を確実に進めていくことはできません。

私たちが素晴らしい仕事を

していくためには、合理的な考え方とともに、「この人のためなら」と思わせるような人徳を兼ね備えていなければいけません。

これは、科学的な合理性と豊かな人間性を併せ持ち、かつ、そのどちらにも偏らないバランスが必要であるという意味です。これを身に付けるにはどうしても合理性と人間性を自由に考える思考習慣が必要です。自由に考えることが出来ると、異なる意見や物事の多様性も受容でき、その本質を掴まえることが出来るように成ります。そして同時に異なる人々の人間性も尊重できるようになり、合理性と人間性の両極端を統御できるようになります。これは利己主義と個人主義と利他主義をコントロールすることになります。

完璧主義を貫く

よく 90 パーセントうまくいくと「これでいいだろう」と妥協してしまう人がいます。

しかし、そのような人には、完璧な製品づくりは到底できません。「間違ったら、入力をし直せばいいとか、消しゴムで消せばよい」というような安易な考えが根底にあるかぎり、本当の意味で自分も周囲も満足できる成果を得ることはできません。

営業や製造という仕事の内容に関係なく、最後の 1 パーセントの努力を怠ったがために、受注を失ったり不良を出したりすることがあります。

自分自身の努力をさらに実りあるものとするためにも、仕事では常に完璧を求めなければなりません。

仕事に於いて完璧主義を貫くには、まず設定する目的や目標が正しい加減ではいけません。非の打ち所がない目的や目標でないといけません。そうでないと矛盾が生じます。

このようにして設定した目的や目標を 100 パーセント達成することが完璧に業務を行うのに

欠かせません。

完璧主義とダブルチェック

人間のやることですから、どんなに有意注意していてもミスを犯します。このことはあらゆる仕事において当てはまります。ひとつひとつの仕事が終了した時に、必ず結果の確認を行うことが必要です。この確認作業には基準が必要です。それは具体的な目的や目標です。作業前に設定した目的と目標を使うと、できていることとできていないことが分かります。それでも人間は潜在意識を使って考え判断しますのでどんなに注意していても違う結果を出してしまいます。ですから確認作業を1人ではなく最低2人で行うことで、多少はミスの回数を減らすことができます。これをダブルチェックと言います。

完璧主義の実践には、非常に困難が伴いますが、やろうという「思い」が必要です。

パーフェクト（完璧）と最善（ベスト）

パーフェクト即ち完璧主義は、完璧にやろうという思いが絶対に必要です。そして仕事の目的と意義、目標を設置して、それを100パーセント達成することです。

そのためには目的や意義、目

標が具体的なモノでなくてははいけません。その仕事の本質を掴み、そこにある原理がどのように働くかを知り、その働きに準じて目的や目標を設定します。ひとつひとつの作業手順が論理的に繋がったコンピュータのアルゴリズムのようなものです。

次に、ベスト即ち最善は、相対的なものの考え方です。いくつかの方案があり、その中で最も良い方法を選んで実践するやり方です。ですから、途中で、もっと良いものが出てきたら、そちらに考え方を鞍替えします。常に物事は時間と共に新たな創造と調和を繰り返し^{へんせん}変遷します。変遷する中でその仕事の本質を掴み、そこにある原理がどのように働くかを知り、その働きに準じて目的や目標を達成する方法を選定して実践する考え方です。どちらも使えます。

目的や目標が明確に決まってい、途中で変化することがない場合は、パーフェクトを目指す考え方が使えます。しかし、常に競合相手からの攻めがある場合は、パーフェクトの考え方で準備し、状況に応じてベストを尽くす考え方が必要です。

※2025 年 06 月号に続きます。

応援メッセージです。

利他の心

利他の心は、誰でも使うことができます。人類が生物圏で自然の中で生き延びていくために、長い年月をかけて後天的に獲得した良心です。

その心は、潜在意識の中に有り、意識して使おうと思わないと出て来ません。

電車の中で、突っ張った少年が老婆に席を譲る姿を見て、心がほっとするのは、自分の顕在意識が潜在意識にある利他の心呼び出すからです。

誰かのために真摯に尽くす姿をみて、涙するのは、あなたの中に利他の心があるからです。

画家アルフレット・デュラーの「祈りの手」を見て、心打たれるのは、あなたの心に利他の心があるからです。

ただし、利己的な考えで実践すると、この利他の心は奥深く沈んでしまい、中々出て来ません。まるで利他の心が無いように思えてしまいます。

いつも損得ばかりを優先して考えていると、利他の心は奥底に沈んでいきます。利己が強い人ばかりに囲まれていると、利他の心は奥深く沈んでいきます。

利己の強い人の中で生きていくのは、心が荒れ、本当に疲れ、きっと誰もがそう感じているはずです。

だから良いことを思い、良いことを行くと、利他の心を表に呼び出せます。

少し、利己を抑え我慢するようになると、心の隙間に利他の心が現れます。誰かの利他の心に触れるようにすると、あなたの利他の心が浮かび上がって来るのです。

自分以外の誰かの事を少し先に思うようにして、本当にこの人の為になることを考えること。そして、感謝をすると利他の心が出て来ます。

利他の心がある人に囲まれて生きていると、利他の心は浮かび上がって来て、素晴らしい人生を送ることができます。

自分自身、則ち真我（魂）で持って、心と肉体を積極的に利他の心が出るようにコントロールすることがとても大切です。

豊原 信